
死神学院

レイヤー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

死神学院

【Nコード】

N2455Z

【作者名】

レイヤー

【あらすじ】

人間の裏側の世界、「魔界」ここにも学校というものはある。それは死神の通う学校「死神学院」。

男女問わずの見習い死神が一流の死神になるために通っている。学院で生活を送る彼らの日常を眺めてみよう。

世界観

人間の裏側の世界、「魔界」ここにも学校というものはある。それは死神の通う学校「死神学院」。

学費も安く、有名な死神を何人も出しているのが有名。

男女問わずの見習い死神が一流の死神になるために通っている。

勉強、運動、部活動、行事をし、「人間界」にいる人間達と同じように暮らしているのである。

が、多少違ったイベントやがあったりする。

この学院は3つの寮があり生徒たちはそこで暮らしている。

- ・ クロス 十字架寮
- ・ ステラ 星寮
- ・ ルーナ 月寮

ランダムで振り分けられる。

1部屋、4人。

男女混合（学年関係なし）で使う。

学年別で授業を行う。

1～4年で、クラスは3組。

世界観（後書き）

質問、お便りなどがあればいつでもどうぞ

入学

「ここが…」

死神学院。

多くの上級死神を出したとして有名な学院。

ここに受験した結果見事合格。

自分でも驚いた。

まさか合格するとは思ってもいなかったからだ。

「よし！ 行こう」

こうして、私…水無月綾瀬^{みなづきあやせ}の新しい生活が始まる。

*

「えーっと、確かこのあたり？」

自分のクラスに行くために校舎の中を歩いているのだが…、
何せ校舎がでかいし、部屋が何個もあるので何処が何処だかわか
らなくなってしまった。

どうしよう…。もう時間もない。

「…あの」

「は、はいっ」

背後から声をかけられたので後ろを向く。

私と同じぐらいの年なのだろうか？と思ったが、
上級生の証である緑のバッジをつけていたので、1つ上の先輩だ
ということが分かった。

見た目は、右目を前髪で隠していて大人しい印象に見える先輩だ
った。

「もしかして、クラスが分からない？」

「…そうです」

アレ？ 何でそのことを…。

「クラスは？」

「B…です」

「じゃあ、この道をまっすぐ行くとBクラスがあるから」

もしかして、この先輩は私みたいに道迷った生徒に道を教えてた
りしているのかな？

だとしたら、なんて心優しい先輩なんだろう。

「ありがとうございます！」

「がんばってね」

ひらひらと手を振る名前の知らない先輩に別れを告げ、言われた通り、まっすぐ行くと、Bクラスと書かれた表札が見えてきた。

まだ教室に入っておらず、廊下で立ち話をする人がちらほらいる。

よかった、間にあって。

教室に入ると、いろんな人が話しこんでいる。

…そういえば席って適当？

黒板に何か書いてあるかなと思い視点を黒板の方に変えてみる。

「あ…ご丁寧にネームプレートで」

一番後ろか。

まあ、目も悪くないからいいか。

「席に着けー、授業始めるぞ」

その一言で、皆は席につき始める。
もちろん私もだ。

「皆、初めまして。オレは今日から君たちの担任のセシルだ」

一人称オレだから、一瞬迷ったけど女性だよな？

「今日は、自己紹介をして授業終わりだ。

一回寮に帰り、先輩方とあいさつするからな」

2、30分で終わると思うんですけど、自己紹介。

「じゃ、安部から自己紹介しろ」

「はい。」――

*

昼時

「えーっと、私の寮は…月寮^{ルーナ}か」

セシル先生から、配布されたプリントを見る。
どの寮に行くのかランダムに振り分けられている。

ちなみに、寮は、十字架^{クロス}、月寮^{ルーナ}、星寮^{ステラ}の三つ。
ある場所もそれぞれ違うし、学院から離れている。

セシル先生は学院を三角で囲むようにあるって聞いたんだけど。
先輩ってどんな人だろう。
優しい先輩であってほしい。

「ここかな、月の模様あるし」

ギイッとドアを押す。

「あ、入らっしゃい」

「こ、こんにちは」

掃除でもしていたのか、エプロンを着たお兄さんが箒をもっていた。

「新人生ようこそ、月寮^{ルーナ}へ。

私はこの寮長をしてる、レスティと申します」

「水無月綾瀬です」

「綾瀬さんは…自分の部屋は分かってるよね？」

「大丈夫です。セシル先生からもらったプリントに書いてありました」

「じゃあ、大丈夫だね」

「では失礼します」

レスティさんに礼をし、自分の部屋を向かう。
えーっと、1025……あ、ここかな？

ガチャッとドアノブをひねり、押す。

「…どうも」

「おお！ こんにちは！」

「初めまして、水無月綾瀬です」

「…ウチは、1学年Cクラス黒羽^{クレハ}」

腰までありそうな黒い髪をポニーテールにしている私と同年の子。

「俺ツチ、2学年Aクラス、御神蓮^{みかみれん}。蓮^{れん}って呼んでちょ」

短髪で茶髪の男の人。

喋り方が少し変わってる人だな…。

「あの…もう一人は？」

「まだ来てないんだよね」

「そうですか」

「分からないことがあつたら聞いてチヨ」

「ありがとうございます」

頼れる先輩だな。

「まあまあ、そんなとこで突っ立てるのもなんでしょ。
中に入らない？」

「失礼しまーす」

入学（後書き）

「入学」更新完了！
いやー、オリジナルって難しいですね。
考えるのに時間がかかります。
では、次回もおたのしみ！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2455z/>

死神学院

2011年12月10日14時51分発行